

平成 23 年度
広島市教育センター

社会的な見方や考え方を養う社会科授業に関する研究 －知識の構造を明らかにすることを通して－

広島市立みどり坂小学校教諭

松崎 浩 尚

研究の要約

中央教育審議会答申（平成20年1月）は、知識概念の活用の前提として、習得すべき知識概念の明確化を重視し、さらに「社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る」ことを明示した。

そこで、学習指導要領の目標と内容に照らし合わせて、単元を通して最終的に身に付けさせたい「社会的な見方や考え方」を明確にし、それを分析・構造化（知識の構造図）し、児童が既にもっているであろう「社会的な見方や考え方」に新たに獲得もしくは修正された「社会的な見方や考え方」を見取る工夫を取り入れていくことで、指導と評価の一体化を図った。

その結果、各時間に身に付けさせたい力の定着化が進むとともに、学習の積み重ねによって「社会的な見方や考え方」が深まり、子どもたち自身の社会科授業に対する学びの主体性も高めていくことができた。

キーワード：社会的な見方や考え方，知識の構造図，「逆向き設計」論
パフォーマンス課題

I 問題の所在

中央教育審議会答申（平成20年1月）は、知識概念の活用の前提として、習得すべき知識概念の明確化を重視し、さらに「社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る」ことを明示した。また、『小学校学習指導要領解説社会編』は、児童一人一人に社会的な見方や考え方を養うために、社会的事象を具体的に観察、調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり、調べたことや考えたことを表現したりできるような問題解決的な学習や体験的な活動、表現活動などの主体的な学習を工夫する必要性を指摘している。

文部科学省委託の『学習指導と学習評価に対する意識調査報告書』（平成21年）は、社会的な思考・判断に関する評価を「円滑に実施できている（そう思う）」とした教員が9.5%であり、課題を感じている教員が多いと分析している。

自身の実践を第5学年の工業単元を例にして振り返ってみると、自動車づくりにかかわる人々の工夫や努力についての学習にとどまっており、日本の工業の姿が分かる学習にまで高めることができていなかった。これは、社会の事実を知る段階に多くの時間を費やし、最終的にどのような力を身に付けさせたらよいかを明確にせず、子どもたちが思考したり判断したりできるような場を十分に設定していなかったことの表れであると考えられる。

そこで、学習指導要領の目標と内容に照らし合わせて、単元を通して最終的に身に付けさせたい「社会的な見方や考え方」を明確にし、活用（思考・判断）を必要とする問題解決的な学習が組み込まれるように、それを分析・構造化（知識の構造化）し、児童が既にもっているであろう「社会的な見方や考え方」に新たに獲得もしくは修正された「社会的な見方や考え方」を見取る工夫を取り入れていくことで、指導と評価の一体化を図っていくこととした。

II 研究の目的

単元を通して身に付けさせたい知識概念を構造化して、単元の指導計画を立てることの有効性について、第5学年「情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり」のモデル授業を構想し、検証する。

III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 検証授業の計画
- 3 検証授業の分析と考察

IV 研究の内容

1 研究主題に関する基礎的研究

(1) 「社会的な見方や考え方」について

森分孝治は、「社会的な見方や考え方」について、「社会的なものの見方・考え方とは、理論的知識のことである。それらをもっておれば、様々な社会的事象の意味を読み解いていくことができる」¹⁾と説明している。

また北俊夫は、学習内容にかかわる知識を「概念的知識」「具体的知識」「用語・語句レベルの知識」の三つに分類し、概念的知識を時間が経っても場所が変わっても変わらない知識、他の事例に応用・転移することができる知識とし、さらに、概念的知識だけ取り上げて子どもたちに伝達しても理解することはできないが、具体的な社会的事象と結びつけたとき理解することができるとしている。

そこで本研究では、森分の「理論的知識」は北の「概念的知識」としてとらえ、「社会的な見方や考え方」を「具体的な社会的事象（具体的知識）と結びつけたとき理解することができる、普遍的な性格をもった、応用性、転移性のある概念的知識」と設定する。

(2) パフォーマンス課題と「逆向き設計」論

西岡加名恵によると「逆向き設計」論とは、単元設計を行う際に、教育によって最終的にもたらされる結果（目標）から遡って教育を設計し、指導が行われた後で考えられがちな評価方法を先に構想するという考えである。そして、最終的にもたらされる結果（目標）を知識やスキルを関連付け総合して得られるような「永続的理解」とし、それを評価するためにはパフォーマンス課題を用いることが必要不可欠であるとしている。

パフォーマンス課題とは、学んだ知識やスキルを応用して実践したり表現したりすることを求めるような、複雑で総合的な課題である。したがって、小単元で身に付けさせたい「社会的な見方や考え方」を最終的にもたらされる結果（目標）と位置付け、それが転移可能な概念として身に付いているかどうかをパフォーマンス課題によって評価することとする。

(3) 「知識の構造図」について

知識の分類については先に述べたとおりであるが、北（前掲）は「知識の構造図」の意義を、単元（小単元）ごとに取り上げられる知識を抽出し、階層的に整理することによって、教師は子どもたちに何を指導するのかを明確にすることができ、あわせて知識相互の関係をとらえることができると述べている。そして、子どもたちの主体性を尊重するという軸と、教師が適切な指導性を発揮するという軸をバランスよく調和させるために、それぞれの知識を問題解決的な学習に位置付けた指導計画を作成する必要があるとしている。

2 検証授業の計画

検証授業は、第5学年の小単元「情報化した社会と国民生活の様子」で行った。

(1) 知識の構造図と指導計画の作成

次のような手順で知識の構造図及び、指導計画を作成する。

ア 学習指導要領の目標と内容に照らし合わせて、小単元で身に付けさせたい「社会的な見方や考え方」を明確にする。

イ 小単元で身に付けさせたい「社会的な見方や考え方」を問うような小単元を貫く問いを設定する。

ウ 「社会的な見方や考え方」が本当に身に付いたのかを問うパフォーマンス課題を設定し、評価規準を明確にする。

エ 学習前の子どもたちの既得の「社会的な見方や考え方」をもとに、子どもたちの思考を予測し、各時間に身に付けさせたい具体的知識を明確にした知識の構造図（図1）を作成する。

オ 知識の構造を問いの構造（表1）に変換し、問いは問題解決的な学習が展開できるように設定する。

カ 各時間の評価方法や評価資料を設定する。

(2) 評価方法の工夫

ア パフォーマンス課題の設定

転移可能な概念として「社会的な見方や考え方」が身に付いたかどうかを見取るパフォーマンス課題（図2）を設定した。特に検証授業では、子どもたちにとって身近な存在である図書館の利用者や司書に、図書館情報ネットワークを整備した人の立場から、これまで学んだ知識や技能を活用して、図書館情報ネットワークのよさや問題点を主体的に説明できるように工夫した。

イ ワークシートの工夫

知識の構造図と照らし合わせ、具体的知識が身に付いているかを客観的に評価できるよう、各時間のワークシートを作成し、子どもたちの「社会的な見方や考え方」が段階的に定着し成長しているのかを見取るためにもワークシートを活用した。さらに、ワークシートに子どもたち自身が学習を振り返ることができるよう自己評価欄を設け、子どもたちの学び方から授業改善を行えるよう工夫した。

(3) 教材開発

情報単元で取り上げる医療情報ネットワークの「社会的な見方や考え方」を養うために、地域教

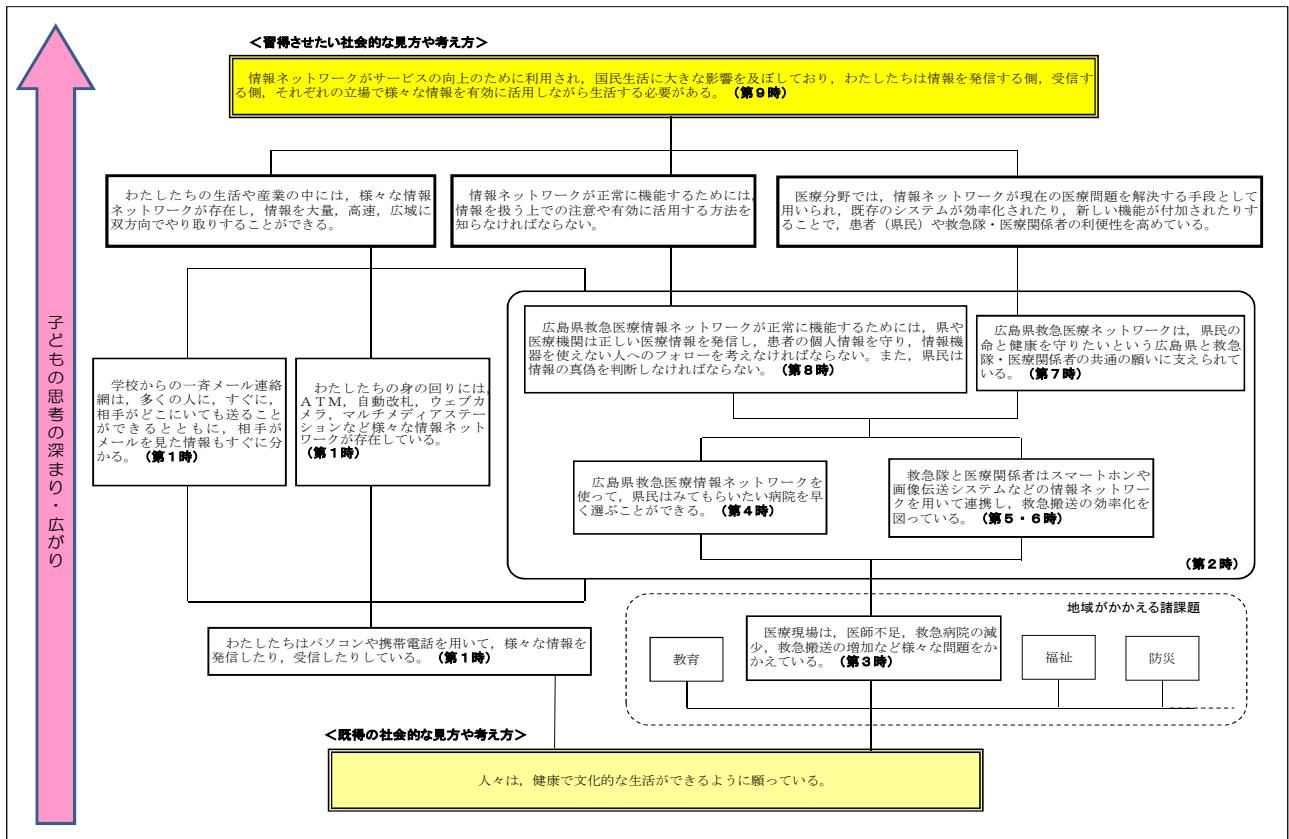


図1 知識の構造図

表1 各時間の主な問いや主な活動

時	主な問いや主な活動
第1時	情報ネットワークにはどのような特徴があるのだろうか。
第2時	学習問題を立て、学習計画を立てる。 → (学習問題) なぜ、救急医療情報ネットワークを整備しているのだろうか。
第3時	救急医療の問題点には、どのようなことがあるのだろうか。
第4時	「救急医療Net HIROSHIMA」にはどのようなサービスがあるのだろうか。
第5時	どのようにして救急活動に情報ネットワークを役立てているのだろうか。 (スマートフォンを用いた救急医療コントロール機能について)
第6時	どのようにして救急活動に情報ネットワークを役立てているのだろうか。 (救急画像伝送システムについて)
第7時	なぜ、救急医療情報ネットワークを整備しているのだろうか。
第8時	救急医療情報ネットワークでは、どのような問題が起こることが考えられるだろうか。 また、問題が起きないようにするために、どのような対策をすればよいだろうか。
第9時	救急医療情報ネットワークで学んだことを生かして、図書館ネットワークを説明しよう。

材としての広島県救急医療情報ネットワークを教材化した。実際のウェブサイトや救急隊が実際に使用しているスマートフォンに触れてみる場面を設けたり、救急医療情報ネットワークにかかわっている人々にインタビューした声を資料として子どもたちに提示したりして、子どもたちにとってより体験的、心情的に訴えかけられるように工夫した。

チャレンジ!!

あなたは、広島市役所で働いています。図書館の利用者の〇〇くんや可書〇〇さんの悩みを解決するために、図書館情報ネットワークを整備しました。下の図を参考にして、どのように悩みを解決したのかを二人に説明してあげましょう。また、図書館情報ネットワークを活用するときにも必ず教えてあげましょう。

利用者の〇〇くん

「こん虫のふしぎ」という本を借りたいなあ。でも、広島市にあるたくさんの図書館を全部行かなければいけないのかなあ。電話でたずねるのも大変だ。

司書の〇〇さん

本の貸し出しと返さやくを図書カードで管理するのは大変だわ。あと、他の図書館にどんな本があるのかも知っておきたいわ。

図2 第9時のパフォーマンス課題

3 検証授業の分析と考察

(1) クラス全体としての様子

クラス全体の毎時間ごとの評価基準の達成度とともに、自己達成感をグラフ（図3と図4）に表した。

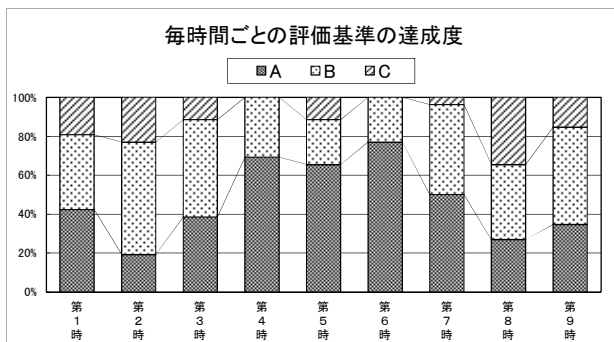


図3 毎時間の評価基準の達成度

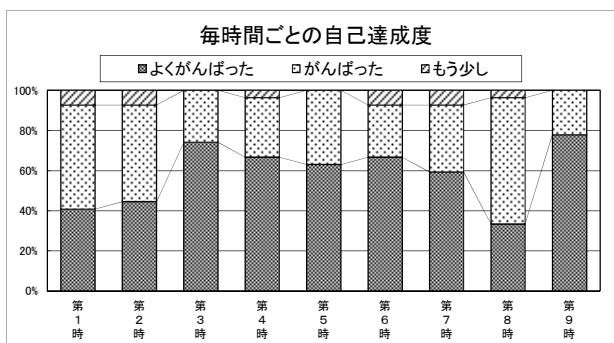


図4 毎時間の自己達成感

全時間を通してA・B評価の子どもが60%を超え（平均約86%）、各時間で身に付けさせたい力が定着している。自己達成感についても、全時間を通して90%以上の子どもが「よくがんばった」、「がんばった」と評価しており、この小單元に対して終始、意欲的に取り組むことができた。

各時間の流れから子どもたちの傾向を見ると、第2時の学習計画を立てる学習では、広島県救急医療情報ネットワークを整備している理由を、救急隊や病院の立場からだけでなく、自分たちの生活とのかかわり（県民の立場）から予想することをもってA評価としていたが、A評価となった子どもは約20%未満であった。

これは、広島県救急医療情報ネットワークに関する情報の提示が不十分であったために、子ども

たちにとって医療そのものが切実に迫るものにならず、身近なものとして考えることが難しかったことが要因として考えられる。そのため、評価基準に照らし合わせて、机間指導中にキーワードに注目させる声かけをしたり、ワークシートを返却する際に細かくコメントを書いたりすることに重点を置いた。

また、広島県救急医療情報ネットワークのウェブサイトや救急隊が実際に用いるスマートフォンを操作する直接体験や、自分の言葉でよさを紹介するという相手意識や目的意識を明確にした課題を取り入れた学習活動を位置付けた結果、第4時の広島県救急医療情報ネットワークを県民が直接利用するときのよさを考える学習では、全員がA・B評価を達成した。そして、続く第5時、第6時の救急隊や病院が利用するときのよさや、それによって生じる患者（県民）にとってのよさを考える学習においても、A・B評価の子どもが第5時は約88%、第6時は100%に達した。

しかし、第8時の広島県救急医療情報ネットワークで起こり得る問題とその対策を考える学習では、C評価の子どもが約40%おり、自己達成感も低くなっている。これは、情報の受信・発信者として必要とされる態度については、これまでの情報学習や言語・数理運用科の学習である程度身に付いていると想定し、本時は演繹的に学習を展開したが、子どもたちの実態が想定と異なっており主体的に活動できなかったためと考えられる。

(2) A児の社会的な見方や考え方の深化

第9時のパフォーマンス課題に至るまでに、子どもたちが身に付けた力の推移を、A児のワークシートの記述（表2）をもとに考察する。

ア 第2時

「なぜ広島県救急医療情報ネットワークを整備したのだろうか」という学習問題に対して、A児は、救急医療体制が人の生命にかかわる重要なシステムであるという認識をもっており、その認識と第1時に学習した情報ネットワークの「高速」という特徴を「早く」という言葉に言い換えて、関連させて説得力のある予想を立てている。

表2 A児の「社会的な見方や考え方」の深化

<p>事実認識</p>	<p>(第2時) 設定した学習問題に対する予想 医療は命にかかわる時があるから、それを早く助けてあげるために広島県民が、病気やけがで困っているときに、医療がきっちりされていないと広島県民が困るから</p>	<p>概念の転移 へ応用へ</p>	<p>(第9時) パフォーマンス課題 ○○くん(利用者のこと)の悩みは、図書館情報ネットワークで、その本がどこの図書館にあるか調べて、本の予約や、近くの図書館に取寄せして解決することができる。○○さん(司書のこと)の悩みは、図書館情報ネットワークで、各図書館に、どんな本が置いてあるのかを調べることができる。あと、それぞれの本にバーコードをはって、スーパーマーケットのように、バーコードから情報を読み取り、パソコンで情報を管理することで解決することができる。 図書館ネットワークには、間違った情報が流れたり、ネットワークを使っている人と使っていない人との間で差が出てきたり、起こるかもしれない問題がたくさんあるから気をつけなければならない。</p>
<p>関係認識</p>	<p>(第4時) 県民にとっての救急医療情報ネットワークのよさ 条件にあった病院をすぐに見つけて、その病院の場所がすぐに分かるので、とても便利です。病院の情報も詳しく載っているから、(病院へ行ってから)長時間待つことがないので、受け入れ困難がありません。(中略)このように、救急医療ネットワーク広島は今まで使っていた電話帳や新聞よりもたくさんの情報と、高速な対応で病院へ行く時間が短縮できます。良い所がたくさんある救急医療ネットワーク広島をぜひ使ってみてください。</p>		<p>(第9時) まとめ 勉強する前は、情報ネットワークがどういうものか知らなかったし、情報ネットワークが身近に活用されていることも知らなかったけれど、この勉強をして、情報ネットワークは、救急医療で人の命を助けるために、日常生活でも役立っていることが分かった。この勉強を生かして、日常生活でも役立てたいなあと思った。</p>
<p>主体認識</p>	<p>(第7時) わたしと救急医療情報ネットワークとの関係 広島県民と救急隊と病院の3つの立場には、命と健康を守ろうという共通の願いがあります。でも、受け入れ困難という状況が起こるために、命と健康を守ろうという願いはかなわないままになっていました。そこで、情報センター(広島県)が広島県民、救急隊、病院の共通の願いをかなうようにするために、救急隊や病院などの協力を得て、広島県救急医療情報ネットワークを立ち上げて、広島県民、救急隊、病院の3つの立場の願いをかなえ、支えることができました。そして、さらによくするために、情報センターは関係者のみなさんの声を聞くことを大切にしています。</p>		

…本時に身に付けた社会的な見方や考え方

イ 第4時

A児は、電話帳や新聞などの従来からある検索方法と比較しながら、「すぐに」・「高速な」や「たくさん」・「詳しい」などの言葉を用いて広島県救急医療情報ネットワークのよさを説明している。このことから、学習問題を追究する中で、第1時で学習した情報ネットワークの「高速」、 「大量(多様)」という特徴が定着しているとともに、第3時で学習した医療問題と関連付けて、よさを具体的に説明できるようになっていることが分かる。

ウ 第7時

第7時は、第3時から第6時までの学習を踏まえて、「なぜ広島県救急医療情報ネットワークを整備したのだろうか」という学習問題に迫る学習内容である。

A児は、広島県民と救急隊と病院の「命と健康を守る」という共通の願いと救急医療の現状との間には隔たりがあり、それを克服するために情報センター(広島県)が救急医療情報ネットワークを整備したと認識している。

共通の願いとは、第4時から第6時で学習した

救急医療情報ネットワークの広島県民、救急隊、病院それぞれにとってのよさを総合して導き出されたものである。そして、第7時でそれまで目に見えなかった救急医療情報ネットワークを支える情報センターの存在を知り、その役割と救急医療情報ネットワークの構造を理解し、「情報ネットワークがサービスの向上のために利用され、国民生活に大きな影響を及ぼしている」という社会的な見方や考え方に迫ることができている。

エ 第9時

第9時のパフォーマンス課題に対する記述から、A児は、図書館情報ネットワークのよさと問題点を、利用者と司書の立場を意識して、学んだ「社会的な見方や考え方」をもとに演繹的に説明することができていると考えられる。

このように第2時、第4時、第7時のA児の記述を分析した結果、前時までに学習して身に付けた知識が次時以降の学習に生かされ、最終的に「社会的な見方や考え方」に到達している様子が分かる。これは、知識の構造図で各時間に身に付けるべき知識を明確にし、知識相互の関係をはっきりとさせた結果であると考えられる。

また第9時の記述から、A児においては、広島県救急医療ネットワークの学習を通して学んだ「社会的な見方や考え方」を転移させ、図書館情報ネットワークのよさを説明することができており、「社会的な見方や考え方」が養われていることが立証されたといえる。

(3) 指導計画の改善点

検証授業を通して、授業改善の方向性を2点あげる。

一つ目は、第8時で行ったような情報の受信・発信者として必要とされる知識や態度についての学習の指導方法である。このような知識や態度の学習は、社会科だけにとどまらず、国語科や総合的な学習の時間、言語・数理運用科等においても行われるものである。情報教育のカリキュラムを整理し、全体を見通して社会科の情報単元をどのように位置付けるかを考える必要がある。そのうえで、「社会的な見方や考え方」が養われるような指導計画を立てなければならない。

二つ目は、第9時に感想という評価方法で単元全体の学習を子どもたちに振り返らせたが、より主体的に説明させるためにも、社会参画という視点を入れた身近な生活の課題として、情報ネットワークのよさや可能性を関連付けさせる評価方法が考えられる。そうすることによって、子どもたちの「社会的な見方や考え方」の深まりを見取る価値が一層高まり、さらに子どもたちの自主的な学習の継続・発展につながるものと考えられる。

V 研究のまとめ

本研究では、概念的知識である「社会的な見方や考え方」を中核に据えた知識の構造図によって、各時間に身に付けさせたい具体的知識を明確にし、それぞれの具体的知識を問題解決的な学習に位置付けた指導計画を作成することが、指導と評価の一体化につながり、子どもたちの「社会的な見方や考え方」を深めることができた。

今後は、子どもたちの「社会的な見方や考

方」がどのように身に付いているのかを見取るために、子どもたちが切実に迫ることができる評価方法の工夫を常に意識して、授業改善のPDCAサイクルを生かした社会科の授業づくりを行っていきたい。

最後に、学習を終えた後の子どもたちの日記や保護者との会話を通して、救急病院で看護師として働く母親の仕事の大変さを再認識するとともに、その苦労を軽減してくれる可能性がある救急医療情報ネットワークに期待を覚える子どもや、自分や家族が病気にかかって困ったときに、救急医療情報ネットワークを活用すればよかったと振り返る子どもがいることを知った。それぞれの子どもの中には、「情報ネットワークがサービスの向上のために利用され、国民生活に大きな影響を及ぼしている」という「社会的な見方や考え方」が根付き、さらに成長していく姿に教師としての手ごたえを感じている。

引用文献

- 1) 森分孝治「社会的なものの見方考え方の拡大・深化・体系化」『学校教育』第1000号 広島大学附属小学校学校教育研究会 2000 p. 38
- 2) 北俊夫『社会科学力をつくる“知識の構造図”－“何が本質か”が見えてくる教材研究のヒントー』明治図書 2011
- 3) 西岡加名恵『「逆向き設計」で確かな学力を保証する』明治図書 2008

参考文献

- ① 小原友行『「思考力・判断力・表現力」をつくる社会科授業デザイン 小学校編』明治図書 2009
- ② 岩田一彦『社会科固有の授業理論 30の提言 総合的学習との関係を明確にする視点』明治図書 2001

